平成３０年度大阪府立刀根山支援学校　学校教育自己診断アンケートの結果考察

はじめに

１　アンケートは児童生徒、保護者、病院関係者、教員を対象に１１月～１２月に実施した。
診断項目に対する回答は、「A：よくあてはまる」「B：ややあてはまる」「C：あまりあてはまらない」「D：全くあてはまらない」とした。

２　診断項目及び集計方法等は、基本的に前回調査（２９年度）を踏襲したが、全診断項目を今年度は精選した。
集計にあたっては、肯定的な回答をA＋B、否定的な回答をC+D、無回答に分類し、前回結果との比較及び結果の顕在化のため、肯定的な回答が８０%以上と、否定的な回答が３０%以上を網掛けで示した。なお、前回結果と変化が大きかったものを変化トータルで示し、３０%以上を網掛けとした。（児童生徒：１０項目、保護者：１６項目、病院関係者：９項目、教職員：２６項目を対象し考察した。）

児童生徒アンケートの結果

○　昨年度との比較では、〔Ａ＋Ｂ〕の割合が１３％増加し８３％に、〔Ｃ＋Ｄ〕の割合が４％減少し１１％であった。全般的に児童生徒からのアンケート評価は高い。

○　「先生はわたしたちのことを大切にしている」「先生は、周りの人とのつながりに気を配ってくれている」の２項目は、「よくあてはまる」だけで６０％を超えている。先生への信頼が厚く、子どもどうしの関係性を大切にしている。

○　課題としては、「自分の将来や進路について、考える機会がある」「気軽に相談できる先生がいる」の２つの項目については、「よくあてはまる」「ややあてはまる」の合計が６３％、７６％と低く、キャリア教育・進路指導・カウンセリングなどのさらなる推進が必要とされる。

保護者アンケートの結果

○　全体的には、〔A＋B〕と〔C＋D〕の割合は昨年とほぼ同じである。
〔A＋B〕が、８０％以上ある項目が８項目あり、学校運営に関しては、保護者の満足度は高いと考えられる。

○「学校は、子どものことについて、保護者の悩みや相談に応じてくれる。」「行事は、子どもが楽しく参加できるように工夫されている。」の２項目については、「よくあてはまる」「ややあてはまる」の合計がいずれも40%台であり、何らかの取り組みが必要となる。

○　「保護者間で交流する機会がある。」「行事は、子どもが楽しく参加できるように工夫されている。」については、無回答の割合が５０％以上ある。
今後もホームページでの情報提供しＰＴＡ活動や学校行事等を認知してもらう。すでにスマホのHP版をアップしているので、情報提供に役立てたい。

○　「日常の教育活動において、子どもの人権を尊重している」の項目は、医療の進歩に伴う入院期間が短期化により、在籍期間も短期化しているので、キャリア教育・防災教育・道徳、人権

教育など特定の教育活動については、認知されない保護者が増加している。

昨年度と比べ、肯定的な回答が減少した項目は、「学校は、子どものことについて、保護者の悩みや相談に応じてくれる」「前籍校や病院と連携」「授業内容の工夫」であり、保護者の気持ちに寄り添ったきめ細かい相談体制やより一層の前籍校・病院との連携を望まれており、病室や狭い分教室での学習であるが、授業に対する期待は高く、授業内容・授業方法については情報機器を使用するなどさらなる工夫が望まれる。

病院関係者アンケートの結果

○　昨年度との比較では、〔Ａ＋Ｂ〕の割合、〔Ｃ＋Ｄ〕の割合は昨年とほぼ同じである。

○　９項目中全項目で「よくあてはまる」「ややあてはまる」の合計が７０％を超えている。今年度当初より医教連絡に重点を置いて運営してきたことが病院の理解を得ている。「学校は、子どもの治療や入院生活に良い影響がある。」の項目については、「よくあてはまる」「ややあてはまる」の合計が９７％と高く、引き続き医療と教育の意思疎通や情報共有の場を大切にしていきたい。

○　「子どもは、学校（病棟）で学習することを楽しみにしている。」の肯定的な回答は昨年度と同じで、全般的には本校の教育活動が評価されている。

教職員アンケートの結果

○　全体的には、〔Ａ＋Ｂ〕と〔Ｃ＋Ｄ〕の割合は８３％と１４％昨年より１０％増加と１２％減少している。

肯定変化１０％以上が１１項目ある。否定変化１０％以上は１０項目ある。

○「職員会議や各分掌等、学校組織は有効的に機能している。」が、〔Ａ＋Ｂ〕が２０％増加した。今年度は、１７％増加し、６部署を横断しての取り組みは評価されている。

○「個別の教育支援計画、個別の指導計画について本人・保護者のニーズを踏まえ作成している。」について、〔Ａ＋Ｂ〕が９８％あり。ニーズを踏まえた個別の教育支援計画、個別の指導計画を作成できていると、多くの先生方と共有できている。

全体のまとめ

項目数	否定的回答（30%以上） H28 →H29 →H30			肯定的回答（80%以上） H28 →H29 →H30			無回答 H29 →H30 増加 減少	
児童生徒結果	2	1	1	7	3	8	1	1
保護者結果	0	0	0	9	9	8	1	1
病院結果	0	0	0	4	4	8	1	1
教員結果	5	12	0	17	13	15	0	0
	7	13	1	37	39	34	3	

○ 上記の表は、平成 28 年度からの３年間の肯定的回答（80%以上）、否定的回答（30%以上）、無回答（増減 10%以上）の項目数を対象別に一覧にしたものであり、アンケート結果を総括的にとらえ、全般的な傾向を見る参考とした。

○ 今回を含め過去 3 回のアンケート全体を通して、否定的回答（Ｃ＋Ｄ）は今年度大きく減少（13 項目→1 項目へ）、肯定的回答（Ａ＋Ｂ）は、５項目減少した。
無回答（増減 10%以上）については、児童生徒、保護者、病院関係者、については、すべて減少した。児童生徒については、今年度に無回答の割合が 50%以上の項目はなかった。児童生徒質問項目は 10 項目（本校、中宮、阪大は除外なし）であるが、６部署において掲載した項目はそれぞれ違い、9 項目（訪問教育部、滝井、枚方は、項目⑩除く）特に訪問教育部は院内学級がない病院に週 3 回の学習を行っているが、他の分教室のように特別活動、学校行事などが行えない状況である。

○ 経年変化を全般的にとらえると、児童生徒については、肯定的な評価が平成 28 年度並に戻り、保護者については 3 年間一定の高い評価を得ている。病院関係については、この 3 年間で肯定的な評価が倍増した。前述した児童生徒、保護者、病院関係者、教職員の課題点を次年度の重点的な改善策として具体的な検討が求められる。評価の高い項目については、さらに充実に向けた取組みを進めたい。